

	疑問(Question)	答え(Answer)	説明
①	全てのPFASは同じ特性をもち、全てのPFASが環境や健康に悪いのでは？	ふっ素樹脂は、他のPFASとは物理的、化学的、毒物学的性質に明らかな違いがあります。ふっ素樹脂は物理的、化学的に安定で、生体蓄積性がなく毒性がありません。	ふっ素樹脂は、OECD <sup>※1</sup> 構造定義に従いPFASの一種に定義されます。ただし、すべてのPFASが同じというわけではありません。PFASの中で一部は毒物学的及び環境上の懸念要因にみなされますが、ふっ素樹脂は、事実、化学的及び生物学的に安定しており、生体蓄積性がなく且つ毒性がないことを意味する低懸念ポリマーのOECD <sup>※1</sup> 基準を満たしています。
②	ふっ素樹脂は、さまざまな用途で他の製品に問題なく置き換えられるのでは？	ふっ素樹脂は、優れた特性と耐久性の組み合わせから他の材料やポリマーと匹敵するものがなく、多くの重要な用途でかけがえのないものです。	そのユニークな特性により、幅広い産業にとって重要な素材となっています。ふっ素樹脂は社会にとって多様で重要な役割を果たし、イノベーションを推進し、野心的なサステナブル目標の実現に貢献します。現在、同程度の高度な性能、耐久性、安全性を提供できるふっ素樹脂の代替品はありません。従って、もし代替が可能としてもより劣ったものへの置き換えを意味します。
③	ふっ素樹脂はPFASの一種として生体蓄積性があるのでは？	小さい分子のPFASのうち、いくつかは動物で生体内蓄積することが示されていますが、ふっ素樹脂は分子が極端に大きいため生体蓄積性はありません。	また、ふっ素樹脂は、自然環境で小さなPFAS分子に分解されません。ふっ素樹脂は、空気、水、日光下において化学的および微生物学的に安定しています。
④	ふっ素樹脂は環境中に持続するため、人間の健康に許容できないリスクをもたらすのでは？	持続性は、人体への毒性、蓄積性及び環境への拡散性のリスクと同じ意味ではありません。	ここで持続性とは、環境中に放出されると長期間にわたって変化しない（または安定している）ことを意味し、ふっ素樹脂は比類ない耐久性により永続するとみなされます。ただし、この耐久性は、ふっ素樹脂が重要でかけがえのない材料である理由になります。ふっ素樹脂は、環境に放出されると潜在的に有害な化学物質に分解せず、生物学的に利用されず変化しません。
⑤	ふっ素樹脂は環境中を移動しやすく、環境や人に有害なのは？	ふっ素樹脂は、環境中を移動すること、環境や人間にとって害を及ぼすこともありません。	ふっ素樹脂は、他のPFASとは一線を画す物理化学的特性の組み合わせを持っています。それらは化学的及び生物学的に不活性であり、推奨される条件下では有害な化学物質に分解されません。ふっ素樹脂は空気、水、日光、化学的及び微生物学的環境で安定しています。

出典元：Plastic Europe Fluoropolymer Product Group発行の『5 Truths about Fluoropolymer：ふっ素樹脂に関する5つの真実』  
<https://fluoropolymers.eu/2022/05/31/five-truths-about-fluoropolymers/>

※1 『Organisation for Economic Co-operation and Development：経済協力開発機構』の略で、日本、米国及び欧州諸国などの先進38ヶ国が加盟する国際機関。